

主 題：救われる信仰と救われない信仰3

聖書箇所：マルコの福音書11章25, 26節

イエスさまと弟子の一行はエルサレムへ入って行かれる、受難週の出来事を見ていますが、それらを通してイエスさまは私たちに、信仰を与えられた者としてどうあるべきか、また信仰をもたない者には神さまが何を望んでおられるのかを教えておられます。前回からは再びベタニヤからエルサレムへ向かうその途上で教えておられることを見ています。22節に「神を信じなさい」とあり、神に喜ばれる人生は神を信じることから始まります。今回は11章の20-24節で、いちじくの木から次のことを学びました。

☆救われる信仰=生きた信仰とは

1. 神への信頼
2. 神への従順

続いて、今日はその三つ目のことを学びます。11章の25,26節からです。

3. 罪の告白

二つのことをイエスさまは命じておられます。

- ・自分の罪を神に告白すること
- ・人の罪を赦しなさい

◎人を赦さないで祈る祈りは神に聞かれないのです。なぜでしょう？

(1)イエスさまご自身が常に人を赦しておられたから。

エペソ4:32「お互いに親切にし、心の優しい人となり、神がキリストにおいてあなたがたを赦してくださったように、互いに赦し合いなさい。」

1ヨハネ3:14「私たちは、自分が死からいのちに移ったことを知っています。それは、兄弟を愛しているからです。愛さない者は、死のうちにとどまっているのです。」

1ヨハネ4:21「神を愛する者は、兄弟をも愛すべきです。私たちはこの命令をキリストから受けています。」

⇒人を赦すことはクリスチャンの特徴です。

2コリント2:10,11「もしあなたが人を赦すなら、私もその人を赦します。私がお金を赦したのなら、私の赦したことは、あなたがたのために、キリストの御前で赦したのです。これは、私たちがサタンに欺かれないためです。私たちはサタンの策略を知らないわけではありません。」

⇒赦さないなら悪魔の策略に陥るのだと警告されています。

マルコ11:25,26, マタイ6:14,15には、もし赦さなければ神はあなたを決して赦さないと言われます。旧約聖書のミカ7:18には「…あなたは、咎を赦し、ご自分のものである残りの者のために、そむきの罪を見過ごされ、怒りをいつまでも持ち続けず、いつくしみを喜ばれるからです。」

これは、日々の生活において犯す罪の告白と赦しです。ヨハネ13章にはイエスさまの洗足の記事がありますが、ペテロが「足だけでなく、手も頭も洗ってください。」といったことに対して、「水浴した者は、足以外は洗う必要がありません。全身きよいのです。」とイエスさまは答えておられます。水浴した者とは救われた人のことです。救われた者はもうきよいのだ、日々の歩みにおいて犯す罪を清算しなさいと言われていたのです。

◎もし、罪を告白しないならどうなるでしょう？

・神の懲らしめを受けます。ヘブル12:9,10には「さらにまた、私たちには肉の父がいて、私たちを懲らしめたのですが、しかも私たちは彼らを敬ったのであれば、なおさらのこと、私たちはすべての霊の父に服従して生きるべきではないでしょうか。なぜなら、肉の父親は、短い期間、自分が良いと思うままに私たちを懲らしめるのですが、霊の父は、私たちの益のため、私たちをご自分の聖さにあずからせようとして、懲らしめるのです。」とありますが、神の懲らしめとは何でしょう？それは神の祝福を失うことです。ヨハネ15:4,5には、ぶどうの木であるイエスさまにつながっているなら多くの実を結ぶが、もしつながっていなければ、枝だけでは実を結ぶことができないとあります。多くの実とはキリストに似た者へと変えられることです。11節にはそれが喜びに満たされることであると言われます。また、ピリピ4:6,7には「…感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願いを神に知っていただきなさい。そうすれば、人のすべての考えにまさる神の平安が、あなたがたの心と思いを

キリスト・イエスにあって守ってくれます。」とあり、11, 12 節にはそれが本当の満足であるとパウロは証しています。2 コリント 9 : 8 「神は、あなたがたを、常にすべてのことに満ち足りて、すべての良いわざにあふれる者とするために、あらゆる恵みをあふれるばかり与えることのできる方です。」、神はこのようなお方なのです。ですから、1 コリント 11 : 28, 29 「…ひとりひとりが自分を吟味して、そのうえでパンを食べ、杯を飲みなさい。みからだをわきまえないで、飲み食いするならば、その飲み食いが自分をさばくこととなります。」のとおり、常に自分を吟味することが大切です。「さばき」はある時には病気、また死かもしれません。罪を軽視してはいけませんという警告です。

◎「赦す」とはどういうことでしょうか？

ユダヤ人は代々人を赦し合うことの大切さを教えられています。私たちは日頃、人を赦すことに難しさを覚えています。エレミヤ 31 : 34 を見ましょう。「…わたしは彼らの咎を赦し、彼らの罪を二度と思い出さないからだ。」、同じことがイザヤ 43 : 25 にも言われています。「わたし、このわたしは、わたし自身のためにあなたのそむきの罪をぬぐい去り、もうあなたの罪を思い出さない。」と。悔い改めたならその罪を問うことは二度とないと、これが神の約束なのです。そして、「赦し」とは再びその罪を持ち出さないことだと言います。ルカ 17 : 3 「…もし兄弟が罪を犯したなら、彼を戒めなさい。そして悔い改めれば、赦しなさい。」、マタイ 18 : 15 も同じです。「また、もし、あなたの兄弟が罪を犯したなら、行って、ふたりだけのところで責めなさい。もし聞き入れたなら、あなたは兄弟を得たのです。」。また、イエスさまは七度でも何度でも赦しなさいと言われます（ルカ 17 : 4）。

そんなことは到底できないから、「私たちの信仰を増してください」（ルカ 17 : 5）という使徒たちに対して、イエスさまの答えは「からし種ほどの信仰があったなら、」です。神の命令に忠実に従っていこうとするその信仰がカギだと言われるのです。このルカ 17 : 7-9 のたとえば、正しいしもべは自分の務めを忠実に果たすということを教えています。当然のことをするだけで、何もいいわけは不要なのだ。1 ヨハネ 5 : 3 に「神を愛するとは、神の命令を守ることです。その命令は重荷とはなりません。」とある通りです。

◎「人を赦す」ことの実践について考えてゆきましょう。

・自分の罪の告白

人に対しての悪意や怒り、憎しみは自分自身から出ることです。自分の信仰が成長しないことがつまづく原因となるのです。自分の内をよく吟味してすべてを神の前に告白することです。

・直接、その人と話をする

赦されることが必要なら、それを求めることです。神が助けてくださいます。相手に罪があって、もしそれを悔い改めようとしないなら、その人が未信者の場合はその救いのために祈ります。クリスチャンの場合は回復を願って、群れ（教会）から除名します。私たちは決して、心の中に人に対しての悪意、敵意をもって歩まないことです。これは必ず行動となって現われます。私たちは神によってどれほどのものを赦されたことでしょうか？ マタイ 18 章にあるたとえを見ましょう。24 節から、王に 1 万タラントの借りがあるしもべは、どうかご猶予ください、と懇願します。彼の主人はかわいそうに思って、彼を赦し、借金を免除してやったのです。ところが、彼から百デナリの借りのある別のしもべが、もう少し待ってほしいと頼むことに承知せず、彼はこのしもべを牢に投げ入れてしまうのです。1 万タラントとは、1 タラントが 6000 デナリですから、膨大な数字になります。これほどの到底払いきれない借金を赦された者が、たった 100 デナリを赦せなかったのです。33 節には「私がおまえをあわれんでやったように、おまえも仲間をあわれんでやるべきではないか。」と主人がこのしもべを叱責し、借金を全部返すまで獄吏に引き渡すのです。そして、35 節「あなたがたもそれぞれ、心から兄弟を赦さないなら、天の私の父も、あなたがたに、このようになさるのです。」とこのたとえの教えをイエスさまは私たちに言っておられます。

終わりに、エペソ 4 : 26 を見ましょう。「怒っても、罪を犯してはなりません。日が暮れるまで憤ったままでいてはいけません。」。一日の終わりにはしっかり自分の心の中を点検し、邪悪なものをきちんと清算すること、これが私たちの責任です。